

抄鳴雷

2015.2.19

外来植物や動物は

総じて繁殖力が強い。観賞用として持ち込まれた北米産の

セイタカアワダチソ

ウもその一つだ。根から他の植

物の発芽を邪魔する毒素を出し

て、在来種を侵食していく▼先

日、小山市が渡良瀬遊水地で、

市民団体などと共同で行った除

去作戦に参加して知った。ラム

サール条約湿地に登録され、希

少な動植物の宝庫として知られ

る渡良瀬遊水地も、この外来植

物の脅威にさらされている▼朝

の遊水地は寒風が吹き付けてい

たが、除去作戦には熱心な市民

ら約500人が集まった。わた

らせ未来基金の代表世話人、青

木章彦さん(57)が抜き取りの作

業手順と現状を説明してくれた

▼広大な遊水地のヨシ原にセイ

タカアワダチソウが目立つよう

になったのは2000年ころか

らだ。作業地に入ると茎丈20㎝

ほどのものがびっしりと生えて

いて、他の植物はほとんど見づ

けることができない▼セイタカ

アワダチソウの下の土壌には、

絶滅が危惧される「タコノアシ」

や「カンエンガヤツリ」などの希

少な温性植物の種子が眠ってい

る。除去が進めば、数十年前に

堆積したこれらの種が発芽する

ことも可能だ。自然のロマンを

感じる▼豊かな自然を誇る渡良

瀬遊水地は、足尾銅山の鉍毒被

害と強制廃村された谷中村の歴史を学ぶ場でもある。貴重な学習フィールドを大事にしたい。